

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090200058
法人名	株式会社 すずらん
事業所名	グループホームすずらんの家
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市若松区大字島田25-1 (電話) 093-772-1200

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月6日

【情報提供票より】(平成20年9月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	18人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2~3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)5,6月以外13,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,670円				

(4) 利用者の概要(9月23日現在)

利用者人数	26名	男性	5名	女性	21名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	67歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡内科クリニック / 菜の花クリニック(歯科)
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

若松区の小高い丘に建てられたグループホームすずらんの家は、1階がデイサービス、2階・3階がグループホームとなっている。リビング空間は広く、眺めは若松を一望する素晴らしいで、ティータイムをはじめ、ゆったりとくつろいで過ごすことができる空間を有している。入居者は喫茶店感覚でコーヒーなどを楽しまれ、笑顔で満足されている。また、バルコニーは建物の周囲を囲むように造られ、いつでも、散歩を楽しめる環境となっている。日々の歩行訓練などにも活用されている。立地条件により、地域との交流は日常的には厳しい環境となっているが、中高生の体験学習の受け入れや、毎年恒例となっている夏まつりへの地域住民の参加など、地域との交流・ふれあいの機会を見出し、地域との関係を高める努力を行っている。今後の更なる展開が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題として 地域密着型サービスとしての理念 地域との交流対策 重度化や終末期の医療連携のあり方などが指摘されている。 についてはホーム独自の理念の検討が望まれる。 については中高生の体験学習を受け入れている。 については今後の取り組みに期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3ユニットの管理者を中心に話し合いを行い、自己評価に取り組みながら改善点などの状況を把握している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、グループホームの現状やサービス内容について意見交換を行っている。地域の方にホームを身近に感じていただき、ホームが地域に溶け込んでいくことを目標に、ホームの状況や活動報告を行っている。 今後は、地域密着型サービスの役割を果たすことが求められ、地域の介護相談を受けるなど、今後の展開に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に家族の参加があり、意見を述べていただいている。出された意見を参考に運営に反映していくように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会などの行事に参加している。建物の立地条件上、近所の方が気軽に訪れることができる環境ではないため、ホームの職員が近隣の家に個別に挨拶に行くなど交流を図っている。ホーム主催の夏まつりなどイベントの時は近隣の住民の参加がある。また、中高生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流を高める努力を行っている。今後は更に近隣住民の方をはじめ、保育所や幼稚園との交流なども積極的に図っていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4つの経営指針と3つの経営理念を掲げ、入居者一人ひとりの支援を行っている。平成18年度の法改正により、地域密着型サービスの役割を理念に明示することが必要となっており、「地域の中でその人らしい生活」を支援していくことが、理念の内容に求められる。		地域密着型サービスのあり方を具体的に表す文言を加えるなど、理念の検討が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営方針と経営理念は、入居者やその家族にも分かっていたるように掲示し、職員は勤務につく前に本日の目標を決めて介護にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会などの行事に参加している。近所の方との付き合いは職員が近隣の家に個別に挨拶に行くなど交流を図っている。ホーム主催の夏まつりなどイベントの時は近隣の住民の参加がある。また、中高生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流を高める努力を行っている。今後は更に近隣住民の方をはじめ、保育所や幼稚園との交流なども積極的に図っていききたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義をミーティングなどで検討し共通理解を得ている。前回の評価結果を受け、記録や介護計画の見直しを行い、そのことによって職員の無駄な動きがなくなったなど効果をあげている。また、自己評価は3ユニットの管理者が中心となって話し合い、改善点などを把握している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に3ヶ月に1回開催されている。運営推進会議は家族の参加があり、意見を述べていただいている。出された意見を参考に運営に反映していくように努めている。運営推進会議は、2ヶ月に1回の開催が義務づけられており、参加者のスケジュール調整が難しい状況ではあるが、参加できない場合は、欠席届けを提出していただいたり、議事録を送るなど定期的な開催を行うことが求められる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	若松区役所主催の地域ケア連絡会に定期的に参加し、行政との情報交換を行っている。また、地域包括支援センターとの意見交換も積極的に行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している入居者は2名おり、マニュアルを用意し、いつでも必要な場合には相談を受けられる状況となっている。今後は、職員の知識としても制度の研修に取り組んでいきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用料金の請求書と共に家族にホームの様子を記した手紙や行事や写真を掲載した「すずらん新聞」を送付している。家族の面会時には積極的に話しかけ、体調などの変化や行動などについても細かく説明や状態を報告しており、家族より安心の評価をいただいている。家族の声として新しい職員の紹介なども報告してほしいとの意向があり、今後の検討に期待したい。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加してもらい、意見を述べてもらっているが、中々、家族の参加が難しい状況にある。今後は、会議のテーマや会議の議事録などを送るなど、家族の参加を得るための運営推進会議の工夫が求められる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動は極力行わないようにしているが、退職者が出た場合はやむを得ず異動もある。職員の異動時は家族になんらかの方法で知らせてほしいとの意向があり、今後の検討を期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	働く意欲や向上心・明るい方・趣味をもっている方など、その人の能力を発揮できるよう多様な面で採用を検討しているが、性別・年齢などは問うていない。職員の働きやすい条件として、職員の意見を尊重し、その反映に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	採用時に幹部職員によるオリエンテーションを行い、採用時だけでなく、ミーティングで随時取り上げ、人権に対する意識を高めている。また、人権に対するマニュアルを各ユニットに配布し理解を育んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	内部研修は、月に1回全員参加のミーティング時に取り入れて実施している。外部の研修も参加できるように努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	介護サービス事業者連絡会に参加し、他事業所との交流を行っている。外交担当の職員が他事業者を訪問し交流を図っている。今後は、他のグループホームとの連絡を密にしネットワークづくりを期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	担当ケアマネと相談し、可能な方は当施設内のショートステイやデイサービスの利用からはじめてもらい、徐々にすずらの家の環境や職員になれていただき、入居者・家族共に安心して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、介護する側という一方的な立場ではなく、共に暮らす立場として対等な関係でレクや清掃活動など一緒にいき、関係づくりに努めている。日々の暮らしの中で入居者から学ぶことは多く、会話の中から本音を引き出すなど、入居者の心からの信頼を高めていけるように努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>広々とした共有空間の中でお茶を楽しんだり、円形の長いバルコニーを散歩したり、テレビを觀賞したりと、一人ひとりの楽しみ方を支援している。日頃の会話や表情から、意向や希望を把握して本人の意向などに、どれだけ近づいているか、職員みんなで話し合っている。職員の情報の共有化を図るために日々の気づきメモなど検討が望まれる。</p>		<p>入居者の意向や希望を把握していくためには、職員の日々の気づきなど、日々の状況の中で職員間で情報を共有していくことが重要である。職員の気づきメモを1ヶ月に1回総合的に分析するなど、センター方式の採用も合わせて検討され、更なる意向などの把握に期待したい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントをもとに本人・家族・職員・関係者と話し合い介護計画を作成している。入居者の役割や活動などをアセスメントの情報をもとに介護計画に反映していくことが望まれる。また、短期の目標設定に対する、日々のケア内容の充実の検討が期待される。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行い、計画の見直しを行い、状態変化が生じた場合には、家族や職員と話し合っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>3ユニットのホームであるため、他ユニットとの交流や四季折々の行事では3ユニット合同の企画を実施し、地域の方や家族を招き盛大に実施している。また、同じ建物のデイサービスと協力し、多彩な楽しみごとを企画している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関(内科・歯科)の主治医により定期的に往診を受けている。また、認知症の症状が強い入居者には、専門医を受診し適切な医療が受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者や家族の希望があれば、家族・医師・職員と話し合い方針を決めている。これまでに当ホームで終末期のケアを行っている。これまでの終末期における経験により、関係者と話し合い、具体的に緩和ケアや家族の協力など本ホームでの看取りを行う条件を整理し、看取りの方針を定めることが求められる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの個性を尊重し、個人情報の保護には十分に注意し、言葉かけや対応に配慮し、トイレ誘導などもミーティングで話し合っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	食事時間・入浴時間・掃除・レク・体操の時間は日課予定表に入っている。予定のない日は希望にそえるように支援しているが、ある程度の規則正しい生活を支援している。入居者の住まいとして、これまでの暮らしの習慣を尊重し、入居者の生活ペースを中心に希望にそえる過ごし方の支援を期待したい。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理は外部委託になっているため、配膳や片づけなどを生活リハビリとして、個々の能力に応じて、職員と共に行っている。時には、カキ氷やどら焼きなど、手軽に入居者が手づくりを楽しんでいただけるように取り組んでいる。気候の良い時期には、「お弁当外出」なども楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の時間帯は16時から18時を目安に支援している。入居者の希望があれば希望にそえるように職員の勤務の流れを検討していきたいと考えている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	散歩やデイサービスの創作活動への参加、ボランティアによるコンサートの参加などレク活動に意欲的に参加していただけるよう取り組んでいる。また、配膳や掃除の手伝い・ベランダの鉢植えの世話など役割を果たしていただけるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	職員の確保や車の都合により、ある程度の日数を取り、準備して外出している。月2、3回は外出する企画を立て、みんなで出かけている。今後は、個別の外出支援の検討を期待したい。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。ベランダ側のドアも開放している。日中は誰がどこにいるのかを理解し、他ユニットともに協力し見守り、居る場所の把握・所在確認を徹底している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害時のマニュアルは作成しているが、定期的な災害訓練実施については、計画中である。年2回の消防訓練が義務づけられており、その際には、地域住民の協力・参加が求められる。		年2回の消防訓練の実施が必要であり、その際には、地域住民の協力・参加が求められ、運営推進会議での検討などが望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	外部委託の管理栄養士により、カロリー計算・栄養バランスが取れた食事内容となっている。水分摂取量は1500mlを目安に確保できるように取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は、眺望が素晴らしく広くゆったりとしたスペースとなっており、テレビ・ソファが置かれ、入居者が思い思いに楽しく談笑できる空間となっている。1ユニットだけ、眺望を楽しむことができる環境にないため、眺望に代わる、楽しい雰囲気づくりに期待したい。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	なじみの家具を置き、使い慣れた品や思い出のある写真や折り紙を飾り、それぞれの居室が落ち着いた居心地の良い空間となるように取り組んでいる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			